

～2025年の年の初めに～

皆さま、良い新年を迎えられましたでしょうか。

私自身は、当地に着任して初めての年末年始ということもあり、シドニーで真夏の新年を迎えました。シドニーの大みそかといえば、やはり、ハーバーブリッジでの花火で、一時はキャンセル話も出てやきもきさせられましたが、世界の多くの都市より先に新年を迎えるシドニーで、盛大な花火を見て、2025年に向けての気持ちを新たにしましたところです。

元旦のお昼にはお節料理とお雑煮を食べながら、日本のお正月を過ごしましたが、シドニーの街は、クリスマス、ボクシングデー、年越し花火でエネルギーを使い果たしたかの様に、元旦は静かに過ぎ、2日からは、かなり普段の街に戻っていた印象を受け、日本の三が日とかなり違うなと感じました。

こうして、季節が真逆のシドニーでエキサイティングな年越しをしつつ、日本のお正月を過ごす中で、日本文化の面白さについてシドニーっ子の興味・関心を引き出す、日本文化普及の重要性を改めて認識しましたので、私が当地に来て2か月半の間にお招きいただいた日本文化関連のイベントの中から、幾つかをご紹介させていただきたいと思います。

まず10月24日には、国際交流基金が毎年主催するジャパン・フィルム・フェスティバルのオープニング上映会に出席しました。印象的だったのは、開催地インナーウェスト市を代表して出席した Philippa Scott 市議が、移民が多い同市は、両親揃って豪州生まれの市民は少数派であり、多文化主義を大切にしており、各コミュニティが文化活動を積極的に行っている、今回のフェスティバルもそうした活動の一つであると述べていたことでした。また、オープニングで上映された映画（「こんにちは、母さん」）も、舞台が東京の典型的な下町でありながら、ストーリーはシニアの方々の恋愛や、50代の中高年男性が直面する管理職の厳しさや家庭の中での位置づけの模索といった、豪州人にも受け入れられる普遍的な内容で、日本の下町の特徴と一般の人々の生活における悩みの共通性がバランスよく描かれていたと思いました。



10月26日には、茶道裏千家シドニー協会の年次茶会に出席しました。茶道に精通していない私は、豪州人のピーター・アームストロング同協会会長やロバート・デーヴィズさんのご説明を聞き、自分の無知さ加減を恥じるところもありましたが、豪州人の匠が作られた茶器を愛でつつ、一期一会を楽しみました。また、豪州の方々と一緒にお茶の立て方のレッスンを受け、素敵な練り菓子と共にお茶を頂戴しました。自分自身でお茶を立てることで、一層興味が掻き立てられるとともに、茶道の深さの一端を垣間見た気がしました。



11月21日には、いけばなインターナショナル・シドニーチャプターのクリスマス総会に参加しました。シドニーチャプターには5流派が参加されており、その活動は1959年に遡るとのことでした。参加者の皆さんは、ご自宅から綺麗なお花を持ち寄られ、中にはブルーマウンテンズ近くに住んでおられる方も参加されており、日本語でも植物の名前に疎い私には、英語の植物名の中には簡単に頭に入らないものがありましたが、そうした知識がなくても、皆さんが生けられたお花の美しさをしっかりと堪能することができました。また、ヒイラギとキャンドルを使ってクリスマスの飾りつけを作るワークショップにも参加させていただき、自分の不器用さを痛感しつつ、インストラクターの方の巧みな助け舟で、それなりの飾りつけができたのではないかと思います。こうした工夫も、豪州の人々の関心を引き立てる一工夫と感じました。



12月1日には Matsuri Japan Festival に、そして12月14日には Japan Expo 2024 に出席しました。

Matsuri Japan Festival は新型コロナ後初開催とのことであり、また、初の屋内開催とのことでした。前夜に大雨が降り、当日の午後雨も降るなど天候は不安定でしたが、祭りは大盛況であり、会場となった屋内が熱気であふれる中、開幕の挨拶を行い、鏡割りに参加しました。

当地の日本人コミュニティを代表する三団体であるシドニー日本クラブ、シドニー日本人会、シドニー日本商工会議所が共同で設立したNPO法人 Matsuri in Sydney Inc.が実施主体となり、日本の魅力が大きく発信されたと思います。



Japan Expo 2024 でも、開幕の挨拶とともに、鏡割りに参加しました。こちらも大盛況のイベントとなり、豪州人の日本への観光客数の伸びと軌を一にして、日本への関心の高まりを確信させるものでした。とりわけ今回は復興庁が会場の真ん中に出展し、福島をアピールしましたが、豪州からの訪日観光客の関心が、東京、京都、大阪といった都市圏だけでなく、魅力ある多くの地方に向く、素晴らしい機会になったのではないかと思います。



これらのイベントへの参加を通じて、日本文化の普遍的な要素は、豪州をはじめ世界の人たちに受け入れられるものと改めて感じました。本年も各地で日本文化関係のイベントが開催される予定です。多文化主義を推進する豪州で、日本文化がより深く理解され、多くの豪州の方々に受け入れられることで、日本と豪州の関係が一層緊密になるよう、微力ながら努力していきたいと、皆様からのご支援・ご指導のほどを、本年も、よろしくお願い申し上げます。